

関西 2 府 4 県 GRP の早期推計 No.7

小川 亮(APIR リサーチャー)、稲田 義久(APIR 研究統括兼数量経済分析センター長)

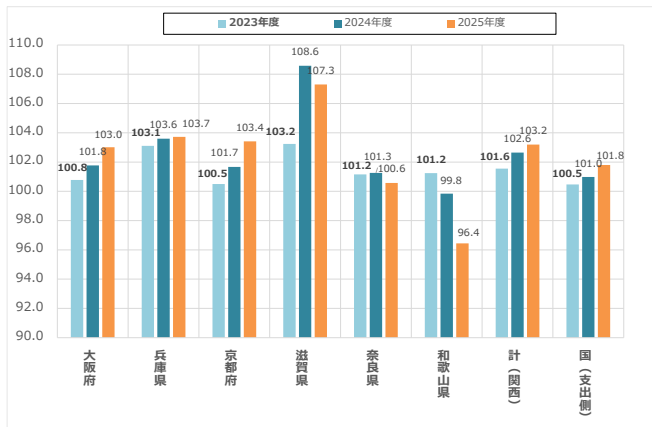
2026 年 5 月 27 日

トピックス：関西各府県の GRP 成長動態： 2024-25 年度早期推計値

【コロナ禍と回復過程】

2023 年度の関西の府県別域内総生産(GRP)が奈良県を除き公表された。図表 1 は 2018 年度を 100 とした各府県の実質 GRP の推移を示したものである。関西各府県の 23 年度の実質 GRP をみれば、関西(101.6)は国全体(100.5)を上回る水準を回復した。

図表 1 各府県の GRP 推移(2018 年度=100)



出所：筆者作成

2023 年度の回復過程を府県別に降順で見れば、滋賀県(103.2)、兵庫県(103.1)、奈良県(101.2)、和歌山県(101.2)、大阪府(100.8)京都府(100.5)となった。

【今回の予測の要約】

2024 年度の早期推計¹では、関西 2 府 4 県の実質 GRP(102.6)と国全体(101.0)はいずれもコロナ禍前を超えており、関西の回復が国全体を上回っている。府県別には、滋賀県(108.6)、兵庫県(103.6)、大阪府(101.8)、京都府(101.7)、奈良県(101.3)が 2018 年度水準を上回る一方、和歌山県(99.8)は同水準をやや下回る。成長率で見ると関西全体は+1.1%となり、寄与度では大阪府が+0.46%ポイント、滋賀県が+0.41%ポイントと、関西全体の成長を主に説明している。

2025 年度の早期推計では、関西の実質 GRP(103.2)はさらに水準を高め、国全体(101.8)の回復を上回る。府県別には、滋賀県(107.3)、兵庫県(103.7)、京都府(103.4)、大阪府(103.0)、奈良県(100.6)が 2018 年度水準を上回る一方、和歌山県(96.4)では低下が見込まれる。成長率をみると、京都府+1.7%、大阪府+1.2%と、関西全体の成長(+0.5%)を牽引する。寄与度で見ると、大阪府+0.56%ポイント、京都府+0.21%ポイントと関西の成長率をほぼ説明している。万博・インバウンド需要や企業投資の増加が下支えとなる一方、滋賀県、奈良県、和歌山県の弱さが関西全体の伸びを抑える(後掲予測要約表を参照)。

*本レポートは、超短期予測の手法に基づき、関西各府県の GRP の早期推計を行うものである。予測改訂頻度は半期に 1 度に行われる。詳細な手法については No.1 の Appendix を参照のこと。

¹⁾ 関西 2 府 4 県の GRP 生産サイド予測では、各経済月次指標から主成分を計算し、それと GRP の回帰式から予測系列の作成を行ってきた。しかし、これまでの府県別 GRP の実績系列と予測系列の当てはまりの良さをみれば、標本期間の前半では当てはまりが良いものの、足下、特にここ 5

年の当てはまりが悪くなる府県が散見された。今回の予測では、加重最小二乗法を用いて兵庫県、京都府、奈良県、和歌山県について足下の当てはまりの良さを改善する手法を試行し、予測精度の向上を目指した。

予測要約表

	大阪府	兵庫県	京都府	滋賀県	奈良県	和歌山県	計(関西)	国(支出側)
モデルの推計期間	2006-23	2006-23	2006-23	2006-23	2006-22	2006-23		
●モデルの適合度								
自由度修正済決定係数	0.75	0.77	0.88	0.87	0.96	0.82	-	
GRP水準のMAPE(%)	1.04	1.62	1.00	1.39	0.79	3.83	-	
GRP成長のMAPE(%)	1.54	2.17	1.87	1.78	1.29	3.43	-	
<2019-2023年度>								
GRP水準のMAPE(%)	0.92	1.28	1.00	0.72	0.88	0.79	-	
GRP成長のMAPE(%)	1.22	1.60	2.01	1.58	1.46	1.53	-	
●実質GRP(10億円)								
FY2020(実績)	39,105	21,584	10,251	6,836	3,636	3,484	84,895	554,311
FY2021(実績)	40,094	22,306	10,754	7,018	3,754	3,680	87,606	576,080
FY2022(実績)	41,246	22,878	10,844	7,133	3,835	3,930	89,865	584,362
FY2023(奈良以外は実績)	41,762	22,921	10,857	7,225	3,883	3,775	90,423	584,166
FY2024(早期推計)	42,175	23,031	10,984	7,599	3,887	3,723	91,399	587,135
FY2025(早期推計)	42,689	23,057	11,172	7,510	3,860	3,596	91,884	591,911
●実質成長率(%)								
FY2021(実績)	2.5	3.3	4.9	2.7	3.2	5.6	3.2	3.9
FY2022(実績)	2.9	2.6	0.8	1.6	2.2	6.8	2.6	1.4
FY2023(奈良以外は実績)	1.2	0.2	0.1	1.3	1.3	-3.9	0.6	0.0
FY2024(早期推計)	1.0	0.5	1.2	5.2	0.1	-1.4	1.1	0.5
FY2025(早期推計)	1.2	0.1	1.7	-1.2	-0.7	-3.4	0.5	0.8
●実質成長率(%)：寄与度ベース								
FY2021(実績)	1.2	0.9	0.6	0.2	0.1	0.2	3.2	
FY2022(実績)	1.3	0.7	0.1	0.1	0.1	0.3	2.6	
FY2023(奈良以外は実績)	0.6	0.0	0.0	0.1	0.1	-0.2	0.6	
FY2024(早期推計)	0.5	0.1	0.1	0.4	0.0	-0.1	1.1	
FY2025(早期推計)	0.6	0.0	0.2	-0.1	0.0	-0.1	0.5	

注1：MAPEはMean Absolute Percentage Error(平均絶対誤差率)の略。

注2：実質GRPは生産側の連鎖価格表示。

注3：2011年度から23年度については2015年基準GRP。それ以前は旧基準値を基に新基準値に接続している。

注4：兵庫県、京都府、奈良県、和歌山県では、サンプル期間のうち直近のデータの当てはまりを相対的に重視する加重最小二乗法を採用し、ウェイトは過去にさかのぼるほど指数関数的に減衰するよう設定している。

注5：シャドウは予測値。

出所：各府県GRP及びGDPについては、内閣府『県民経済計算』及び『国民経済計算』を参照のこと。予測値は筆者作成

関西各府県の予測

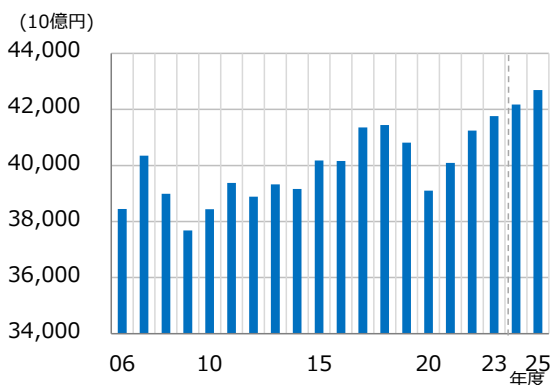
(1) 関西

関西 2 府 4 県の実質 GRP(生産側)の合計でみた実質成長率は、早期推計によると 2024 年度が+1.1%、25 年度が+0.5%になると見込まれる。コロナ禍の経済不況からの回復が一服したのちに、23 年度以降でプラス成長が続くと予測される。

(2) 大阪府

大阪府の実質 GRP は、2024 年度は 42.18 兆円、25 年度は 42.69 兆円となる。実質成長率で見ると、24 年度が+1.0%、25 年度が+1.2%となる。22 年度にコロナ禍の景気後退から回復した後、成長トレンドが 25 年度も続くことが見込まれる(図表 2)。

図表 2 大阪府の実質 GRP



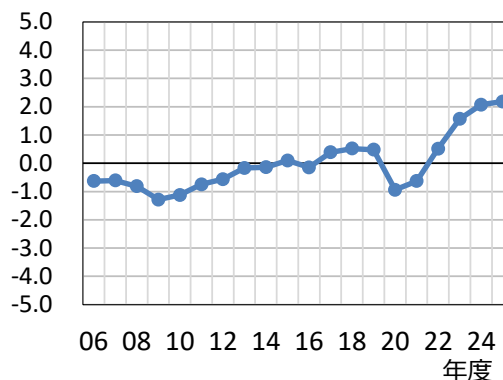
注：2023 年度までは実績値、24・25 年度は APIR 早期推計値。
出所：筆者作成

予測モデルで採用している大阪府の一次統計のうち、消費、企業投資、雇用、生産の動きを表す 4 つの統計の特徴を確かめる。大型小売店販売額(従業者一人あたり)の図表 3 をみると、コロナ禍前の水準(2019 年度)に対して 22 年度に回復し、23 年度に凌駕し、24 年度も続伸した。25 年度でも伸びは弱まるものの続伸している。

次に企業投資の図表 4 は建築着工工事費予定額：会

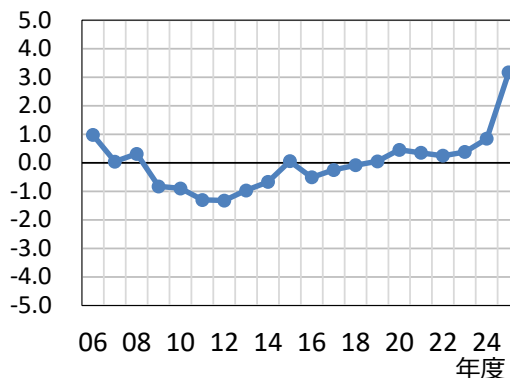
社(後方 5 カ月平均値の年度平均値)である。24 年度において増加し、25 年度は大阪 IR の建設開始もあって大きな増加がみられる。

図表 3 大阪府の大型小売店販売額(対従業者数)²⁾



出所：筆者作成

図表 4 大阪府の建築着工工事費予定額：会社



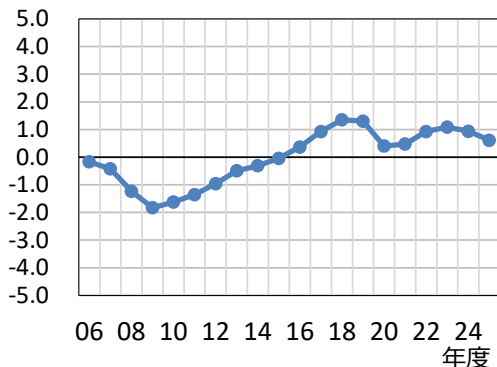
出所：筆者作成

一方、雇用や生産の面で 24 年度、25 年度に弱い動きがみられることに留意が必要である。有効求人倍率の図表 5 をみると、24 年度、25 年度と弱いながらも低下傾向にある。また、製造工業生産指数の図表 6 をみると、23 年度以前の低下傾向に歯止めがかからず、24 年度以降も低下している。

²⁾ 各月次指標の動きを比較可能とするために、月次値を年度平均値にした後に標準化(平均値を 0、標準偏差を 1 に変換)している。

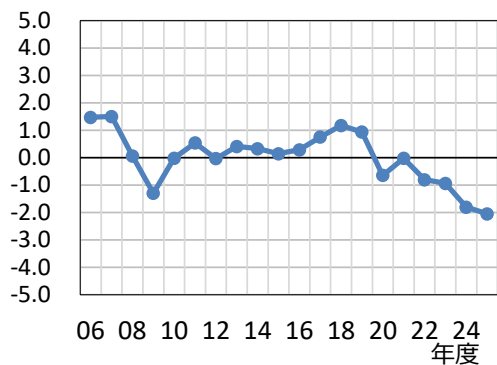
なお、2025 年度におけるデータ公表前の月次値は VAR モデルによる予測値を使用した。

図表 5 大阪府の有効求人倍率



出所：筆者作成

図表 6 大阪府の製造工業生産指数

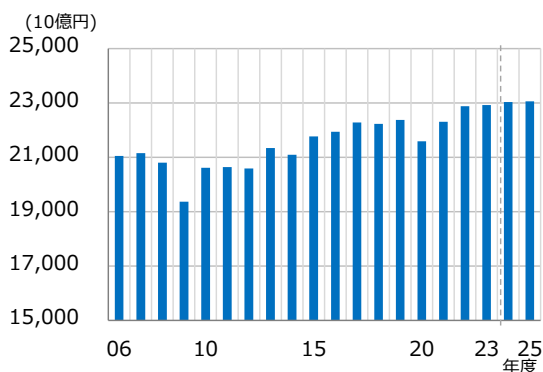


出所：筆者作成

(3) 兵庫県

兵庫県の実質 GRP は、2024 年度が 23.03 兆円、25 年度が 23.06 兆円となる。実質成長率は 24 年度が +0.5%、25 年度が +0.1%となる。23 年度以降で 1% 未満のプラス成長が続くと見込まれる(図表 7)。

図表 7 兵庫県の実質 GRP

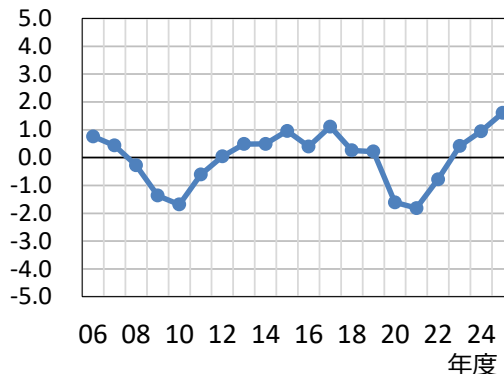


注：2023 年度までは実績値、24・25 年度は APIR 早期推計値。

出所：筆者作成

兵庫県の一次統計でも消費と企業投資、雇用、生産の動きに着目する。図表 8 は大型小売店販売額(従業員一人あたり)である。2020 年度と 21 年度の落ち込みから回復傾向にあり、23 年度にコロナ禍前の水準を超え、24 年度以降も続伸している。

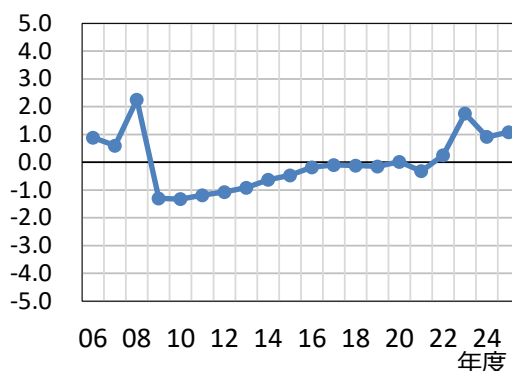
図表 8 兵庫県の大型小売店販売額(対従業員数)



出所：筆者作成

次に企業投資である。図表 9 の建築着工工事費予定額：会社(後方 5 カ月平均値の年度平均値)をみると、2022 年度までは横ばいの傾向を示していたが 23 年度に大きく増加した。24 年度は 23 年度より幾分減速したが、その後 25 年度はやや伸びている。

図表 9 兵庫県の建築着工工事費予定額：会社

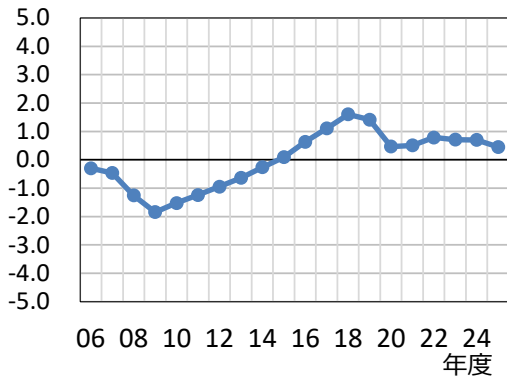


出所：筆者作成

一方、雇用や生産の面では 24 年度、25 年度に横ばいの動きである。有効求人倍率の図表 10 をみると、24 年度、25 年度と横ばいの傾向にある。また、製造

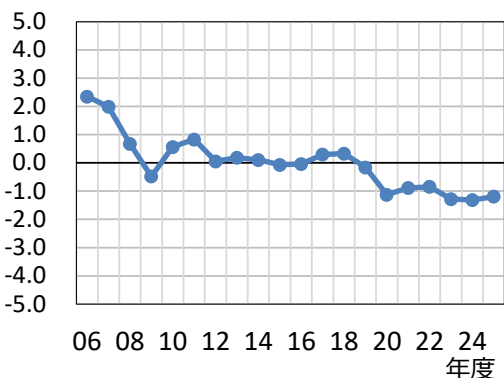
工業生産指数の図表 11 をみると、コロナ禍に落ち込んだ 20 年度から回復の兆しはなく横ばいが続いている。

図表 10 兵庫県の有効求人倍率



出所：筆者作成

図表 11 兵庫県の製造工業生産指数



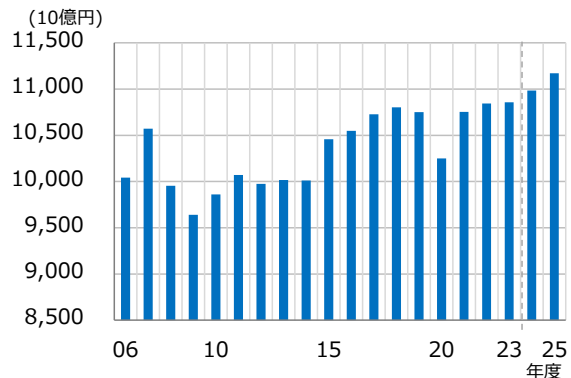
出所：筆者作成

(4) 京都府

京都府の実質 GRP は、2024 年度が 10.99 兆円、25 年度が 11.17 兆円となる。実質成長率は 24 年度が +1.2%、25 年度が +1.7% となる。24 年度以降で 1% を超えるプラス成長が続くと見込まれる(図表 12)。

京都府の一次統計では消費と企業投資に着目する。図表 13 は大型小売店販売額(従業者一人あたり)であり、コロナ禍後は大阪府と同様に伸びが続いてきたが、2025 年度にはその動きに一服感がみられる。

図表 12 京都府の実質 GRP

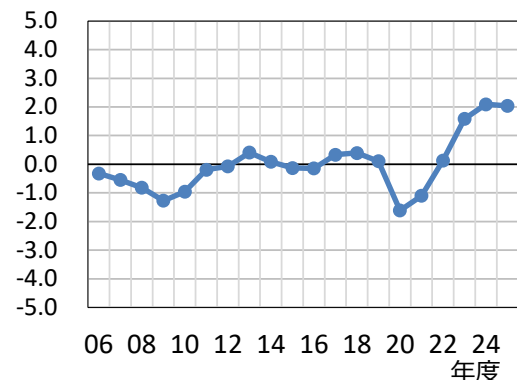


注：2023 年度までは実績値、24・25 年度は APIR 早期推計値。

出所：筆者作成

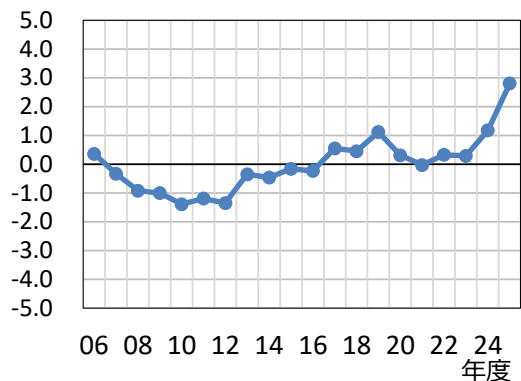
次に企業投資の動きである。図表 14 の建築着工工事費予定額：会社(後方 5 カ月平均値の年度平均値)をみると、2021 年度に落ち込みで底を打った後、24 年度まで回復傾向が続いた。25 年度は大きく続伸している。

図表 13 京都府の大型小売店販売額(対従業者数)



出所：筆者作成

図表 14 京都府の建築着工工事費予定額：会社

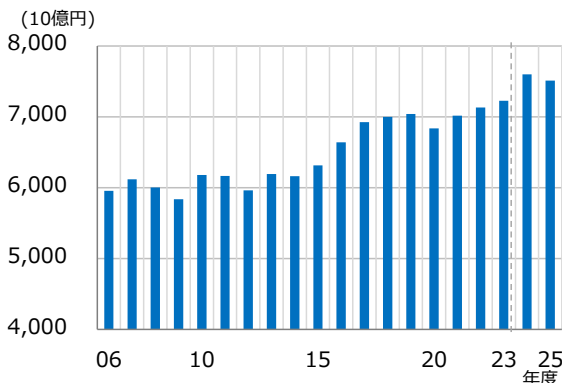


出所：筆者作成

(5) 滋賀県

滋賀県の実質 GRP は、2024 年度が 7.60 兆円、25 年度が 7.51 兆円となる。実質成長率は 24 年度が +5.2%、25 年度が -1.2%となる。24 年度に大きなプラス成長になるが、その反動で 25 年度はマイナス成長になると見込まれる(図表 15)。

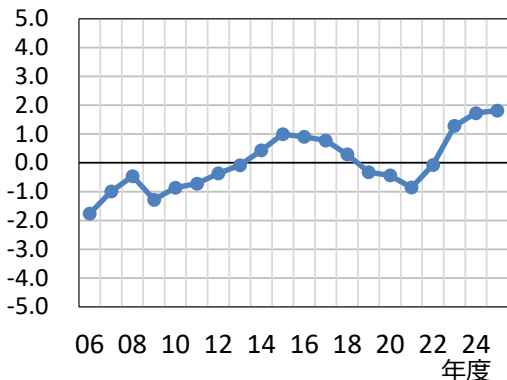
図表 15 滋賀県の実質 GRP



注：2023 年度までは実績値、24・25 年度は APIR 早期推計値。
出所：筆者作成

滋賀県の一次統計では、消費と企業投資の動きを確認する。まず、図表 16 は大型小売店販売額(従業員一人あたり)である。2015 年度から低下が続いたが、22 年度から回復傾向に転じている。23 年度には 15 年度を超える水準になるほどの大きな伸びとなり、24 年度も増加を維持した。しかし、25 年度予測値は京都府と同様にその動きに一服感がみられる。

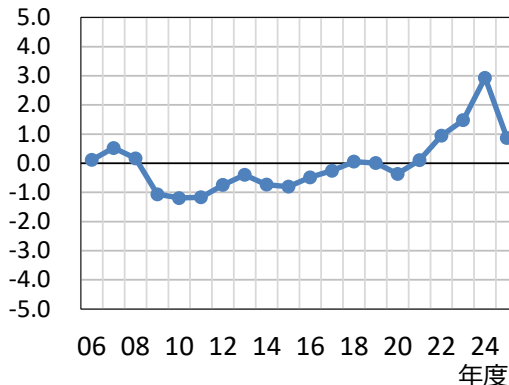
図表 16 滋賀県の大型小売店販売額(対従業員数)



出所：筆者作成

次に企業投資である。図表 17 の建築着工工事費予定額：会社(後方 5 カ月平均値の年度平均値)をみると、ここ 10 年間にしておおむねプラス成長の傾向であったが、特に 23 年度に大きな伸びを示し、24 年度もさらに続伸した。しかし、25 年度予測値は 22 年度の水準に後退する。

図表 17 滋賀県の建築着工工事費予定額：会社

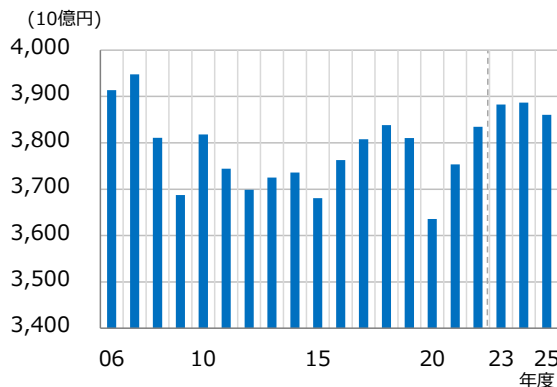


出所：筆者作成

(6) 奈良県

奈良県の実質 GRP は 2023 年度が 3.88 兆円、24 年度が 3.89 兆円、25 年度が 3.86 兆円となる。実質成長率は、23 年度が +1.3%、24 年度が +0.1%、25 年度が -0.7%となる。23 年度にプラス成長し、24 年度は横ばい、25 年度はマイナス成長になると見込まれる(図表 18)。

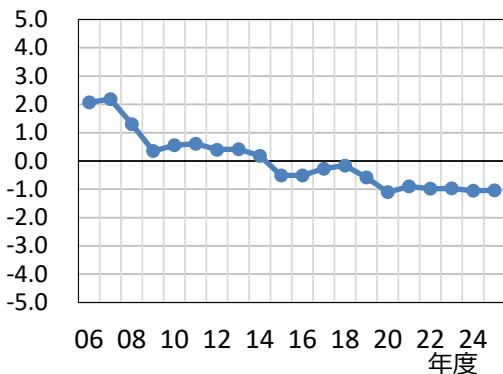
図表 18 奈良県の実質 GRP



注：2022 年度までは実績値、23・24・25 年度は APIR 早期推計値。
出所：筆者作成

奈良県の一次統計では、生産に着目する。図表 19 は、製造工業生産指数である。コロナ・ショックにより 20 年度に落ち込んだ後、21 年度から 25 年度にかけてほぼ横ばい傾向にある。

図表 19 奈良県の製造工業生産指数

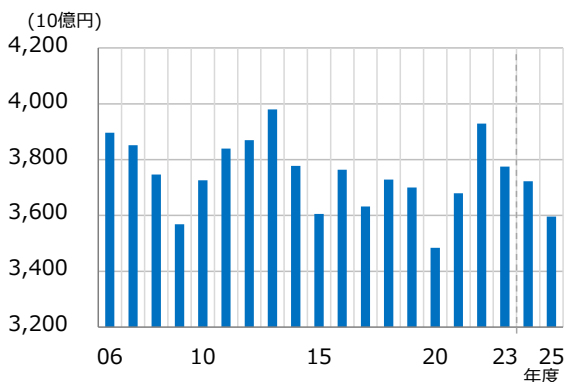


出所：筆者作成

(7) 和歌山県

和歌山県の実質 GRP は、2024 年度が 3.72 兆円、25 年度が 3.60 兆円となる。実質成長率は 24 年度が-1.4%、25 年度が-3.4%となる。24 年度は落ち込み、25 年度もさらにマイナス成長になると見込まれる(図表 20)。

図表 20 和歌山県の実質 GRP



注)2023 年度までは実績値、24・25 年度は APIR 早期推計値。

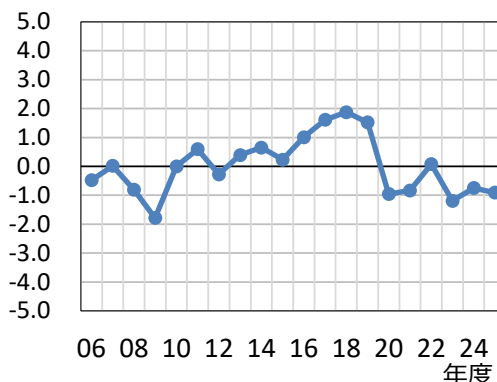
出所：筆者作成

和歌山県の一次統計では、生産と投資の動きを確認する。図表 21 は製造工業生産指数である。2020 年度・21 年度のコロナ禍の落ち込みから、22 年度に一部回

復したが、23 年度に再び落ち込み、24 年度以降もその停滞が続くとみられる。

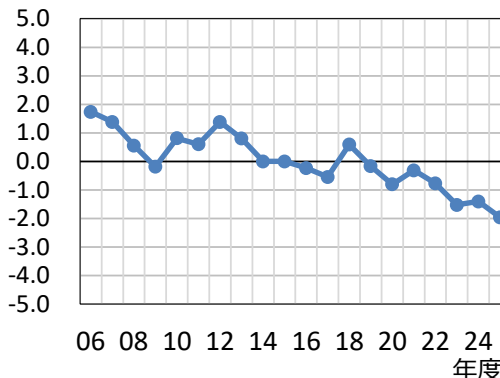
図表 22 は、建築着工床面積(後方 5 カ月平均値の年度平均値)である。2021 年度から低下傾向が続いている。

図表 21 和歌山県の製造工業生産指数



出所：筆者作成

図表 22 和歌山県の建築着工床面積



出所：筆者作成

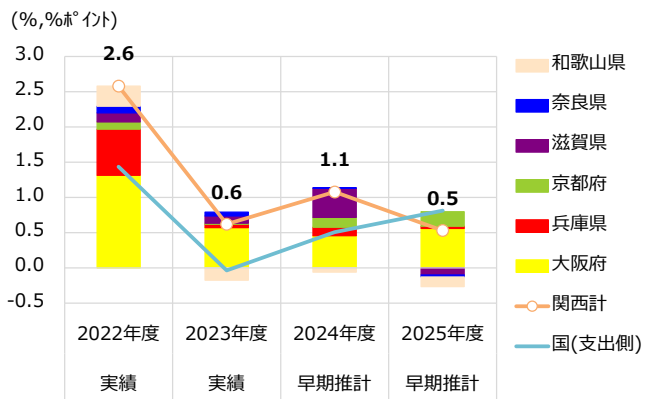
(8) 府県別のまとめ

最後に、2022-25 年度における関西経済の各年度成長率に対する府県別寄与度を図表 23 に示す。

2022 年度の GRP(実績)は関西全体で+2.6%のプラス成長であり、全府県がプラスに寄与している。特に大阪府(+1.3%ポイント)、兵庫県(+0.7%ポイント)のプラスの寄与度は大きい。23 年度は+0.6%、24 年度に+1.1%とプラス成長が続き、25 年度には主に大阪府と京都府の牽引により、関西全体で+0.5%ほどの成長が見込ま

れる。

図表 23 関西の実質成長率と府県別寄与度



出所：筆者作成